

事業等名	スマート農業総合推進対策事業	担当部局	農林水産技術会議事務局研究推進課
------	----------------	------	------------------

(現状・課題) ・農業の現場においては少子高齢化等のため、担い手が減少。 ・農薬散布や収穫・運搬などの長時間・重労働。 ・生産性の向上と人手不足に対応するため、ロボット、A I、I o T等の先端技術を活用した「スマート農業」の社会実装の加速化が必要。	(現状・課題を示すデータ) 農業労働力の減少（H27→R12：208万人→140万人） 外国人材への依存の高まり（H26→R1：1.7万人→3.5万人）
---	---

インプット	アクティビティ	アウトプット	アウトカム (短期)	アウトカム (中期)	アウトカム (長期)	インパクト
予算 (百万円) R1:ー R2:1,500 R3:1,359	①スマート農業技術の現場実証 ②農林水産データ管理・活用基盤の強化 ③ロボット技術安全性確保策の検討 ④新たな営農技術体系構築等を支援 ⑤土壌診断DBの構築等を支援 ⑥スマート農業教育の取組を支援	①実証計画数【R2:13計画】 ②WAGRIに実装されたデータ・システム数【R2:12データセット】 ③安全性の検証等を行うロボットの機種数【R2:7機種】 ④新たな営農技術体系を構築した都道府県数【R2:29道府県】 ⑤土壌診断DB構築のために収集したデータ数【R2:約3,000件】 ⑥動画コンテンツ作成数【R2:3コマ】	①年度計画に定められた目標を達成した実証計画の割合 指標① ②WAGRIの新規利用者数 指標② ③安全策を策定して市販化が実現されたロボットシステムの数 指標③ ⑤土壌診断DBを活用する都道府県の数 指標④ ⑥スマート農業をカリキュラム化した農業大学校数 指標⑤	データを活用した農業に取り組みたいと考える農業者の割合 指標⑥	農業の担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を実践 指標⑦	データと先端技術のフル活用による「スマート農業」の実現を通じた農業の持続的発展(Society5.0の実現)

指標① 評価結果が「B（目標どおり）」以上の実証計画の割合 R2:77%（年度目標：80%）	指標④ 土壌診断DBを活用する都道府県の数 R2:6（年度目標:7）	指標⑥ 実証成果の情報発信や学習会等のアウトリーチ活動等の際にアンケートを実施（令和5年度目標）
指標② WAGRIの新規利用者数 R2:17者（年度目標：15者）	指標⑤ スマート農業をカリキュラム化した農業大学校数 R2:32校（令和4年度目標：全農業大学校42校）	指標⑦ 農林業センサスにより、データを活用した農業を行っている農業经营主体数を集計（令和7年度目標）
指標③ 安全策を策定したロボットシステムのうち市販化されたシステム数を集計 R2:9種類（年度目標：7種類）		